公　　民

現　代　社　会

第１　高等学校教科担当教員の意見・評価

１　前　　文

令和４年度（第２回）大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）が実施された。
なお，評価に当たっては，14ページに記載の８つの観点により，総合的に検討を行った。

２　内　容・範　囲

生徒が主体的に学習を進める出題方法など,「現代社会」の科目的特徴を意識した切り口でそれぞれの出題が工夫されていた。

文章や資料を読み取り，理解する技能を必要とする問題が数多く出題されていることが今年度の特徴である。小問ごとに生徒のレポートやメモ，図と説明文などによって資料を提示することで，一方で具体的事象を抽象化させて考察させたり，他方で抽象的な概念を具体的事象にあてはめて考えさせたりする出題の工夫が見られた。また，選択肢の選び方に新しい方法を取り入れることによって，受験者の思考力・判断力・表現力等を引き出すための新たな出題方法を教育現場に提案していると捉えることができるだろう。単に教科書で習う概念を記憶するだけでなく，社会の諸課題や時事的な事象に高く広くアンテナを立て，それらの課題に対して，学習した内容を特定の分野・領域に偏ることなくさまざまな角度から関連づけて考察する必要性があるという出題者からのメッセージが感じられる。

全体をとおして，内容や範囲での偏りはなく，学習指導要領に定める範囲で出題され，難易度は標準である。

第１問　高校生が，住んでいる地方自治体の役所で就業体験をしたという場面が設定された。地方自治や選挙などの国内政治，PKOやODAなどの国際分野をテーマに幅広い分野における基本的な知識の理解が求められた。一方，思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題もあり，バランスよく出題された。小問が８つあり，資料を基に考察させる問題もあったので解くのに時間がかかったと思われる。難易度はやや難しかった。

問１　地方自治について，基礎的・基本的な知識を問う問題である。

問２　公務員に関連する法制度について，基礎的・基本的な知識を問う問題である。比較的新しい制度である内閣人事局が扱われ，受験者にとっては，やや難しかったと思われる。

問３　ドント式について，知識と資料を基に，考察させる問題である。通常のドント式に加え，奇数で割る方式も出てきて受験者は戸惑ったのではないか。奇数で割る方式については，同じ比例代表制でも議席配分の方法が違えば異なった結果が出てくるということを理解させる出題意図であったと推測される。どの国の，どういう場面でこの方式が使われているかが示してあれば，受験者のさらなる学びにつながったのではないか。

問４　「一票の格差」について，知識を基に，格差を縮めるための対応を考察させる問題である。

問５　PKOについての資料を読み取らせる問題であり，難易度は標準的である。２つの表から数字を読み取っていけば解けるが，時間がかかったと思われる。

問６　南北問題やODAなどについての知識を問う問題である。「人間の基本的ニーズ（BHN）」の語句は，教科書によっては記載がないので，難しかったと思われる。また，DACが，IMFではなくOECDの下部組織であるという知識もやや専門的であり難しかったと思われる。

問７　企業，NGOなど開発協力の主体についての知識を問う，標準的な問題である。

問８　社会と人間の関わりについて，倫理分野の知識を問う問題である。選択肢の佐久間象山は，「現代社会」の限られた倫理分野では取り上げるのが難しい人物であり，やや専門的な出題であると思われた。倫理分野について，知識を活用させる問題を求めたい。

第２問　校長先生によって高校３年生向けに講話が行われた，という場面設定での問題である。主に青年期をテーマに出題された。基本的な知識を問うことを中心とした出題で，受験者は落ち着いて取り組めたと推測される。全体として，標準的な難易度の出題である。

問１　ブレインストーミングなど研究の方法について，基礎的・基本的な知識を問う，標準的な問題である。

問２　アイデンティティについて，知識と資料を基に，その分類を考察させる問題である。エリクソンの概念を発展させた内容で，受験者にとっては馴染みの薄い考え方を用いる問題であったと思われる。アイデンティティを受験者に引きつけて考えさせる良問である。

問３　防衛機制について，知識を基に，その内容の適否を考えさせる問題である。従来は防衛機制の種類の名前が問われることが多かったが，ここではその内容が問われた。知識に加え，その内容に対する理解度を測る良問である。

問４　企業についての基礎的・基本的な知識を問う，標準的な問題である。

問５　若年者に関連する日本の法制度について問う問題である。2022年４月改正予定の成年年齢引き下げという時事的なことが出題された。また，少年法についての知識はやや難しかったと思われる。教科書は，発行された時点での法制度にとどまっているので，それ以降改定された法制度をどこまで補うのか，教員側の対応が必要となってくる。

第３問　高校生が大学の講義を受講した後にもった疑問点をまとめ，自らの調べ学習をとおして，疑問点を解消していくストーリー仕立ての設問方法が新鮮であった。基本的な知識に加えて，資料の理解をもとに，思考力・判断力・表現力等が求められた。難易度は，小問ごとに標準と難問のばらつきが見られ，短時間で難解かつ分量も多い資料を読み解き，内容を理解する技能が求められ，受験者は戸惑ったのではないか。

問１　５つの歴史的事象を並び替えることで基礎的・基本的な知識を基に，日本のバブル経済の発生と崩壊の過程について考察させる良問である。難易度はある事象の原因と結果の結びつきに関する正しい理解が必要とされるため，やや難しい。

問２　事例とメモから，法律用語の専門的な説明を読み取り，不良債権の説明を基にどれに該当するかを考察させる問題。短時間で文章を読みとる技能が必要となり，難易度はやや難しい。高度な法律用語を理解することも「現代社会」の学習に必須だというメッセージを受験者に与えてしまうことにもなるので，素材の選び方には今後も工夫を求めたい。

問３　図と説明文から計算を用いて信用創造の概念を問う問題である。図を参考にして，説明文を丁寧に読みとく時間を必要とするが，難易度は標準である。信用創造について，金融政策の一例として預金準備率操作の理解度を測るためには適切な出題である。

問４　貨幣の四つの機能に関する問題。貨幣の機能については基礎的・基本的な知識で導き出すことができる。問題文に四つの機能の説明を入れたことで，知識に関連づけた考察問題で

はなく，文章の読み取り，分類する技能を求める問題になってしまった。

問５　現行の男女雇用機会均等法についての知識が問われた。選択肢に全てが該当する「①アとイとウ」と「⑧正しいものはない」があるために，難易度は難しくなった。

問６　日本の労働問題のひとつである女性のM型雇用について，知識を基に，グラフから考察する問題である。女性のデータの経年変化を考察させるだけでなく，男性のデータも選択肢に入っていることでより具体的な考察が求められる良問であった。難易度は標準である。近年の労働環境は変化が激しく，自分自身の問題として，受験者に常に関心をもっていてもらいたい分野である。

第４問　配布プリントと生徒のレポートを資料とした問題である。主に倫理分野と政治分野についての知識と，思考力・判断力・表現力等がバランスよく求められた。冒頭の配布プリントがリード文のようにも活用されているが，内容のメッセージ性が強く，心に響いた受験者も多かったのではないだろうか。難易度は標準である。

問１　多様性（ダイバーシティ）というキーワードを基に，自治体や企業で行われている具体的な取組みに関して，概念や理論を活用し，考察させる良問である。正しい選択肢には，女性・障害者・同性カップルというキーワードが入っており，難易度は易しい。

問２　対話や共生のあり方が重要であるというキーワードを基に，異文化理解に関する思想家・活動家を問う標準的な知識問題である。マララ・ユスフザイのような時事的な人物や，ハーバーマスが唱えた「対話的理性」のような新課程を意識した思想を取り上げた点は評価できる。

問３　自己決定権に関する医療用語について，概念や理論を活用して組み合わせる問題である。難易度は標準である。

問４　配布プリントの内容を参考にしながら，ミニレポートの内容を理解して考察させることと，日本文化の特徴に関する知識を問うことを組み合わせた穴埋め問題である。配布プリントを参考にして，ミニレポートを丁寧に読み取る技能を必要とするが，難易度は標準である。２枚前のページをめくりながら解答をしなければいけない小問の配置に受験者は戸惑ったのではないだろうか。

問５　知的財産権の侵害に関する著作権の知識や思考力・判断力・表現力等について，具体例を用いて問われた正誤判断問題である。提示された具体例が２例のみのため難易度は平易ではある。

問６　個人情報についての法整備に関する基礎的・基本的な知識を問う問題である。単に受験者の知識を問う小問となっており，大問の最後の問題としては出題方法にやや物足りなさを感じた。

第５問　持続可能な社会の形成をテーマに，現代社会の授業の中で課題研究を進めていく設定で，３つの場面に分けた出題形式の問題。基礎的・基本的な知識に加え，特定の概念定義や提示された資料を短時間で読解・理解する技能や，抽象的な概念を具体的事象に当てはめる思考力・判断力・表現力等が求められた。時間はかかるが，丁寧に読み取れば，難易度は標準である。

問１　会話文と資料を組み合わせた空欄穴埋め問題。高齢化率と合計特殊出生率，人口流入・転出の推移の資料を読み取る技能と，思考力・判断力・表現力等が求められた。記述を当てはめる選択肢の提示方法が新鮮ではあった。難易度は標準である。空欄Ｚの記述について，資料を読み取らなくても会話の流れや一般的な社会常識で解答を導き出した受験者は多かったのではないだろうか。

問２　２つの社会資本の概念について，具体例を概念定義に当てはめさせる問題。生活関連社

会資本と生産関連社会資本の詳しい説明があったために知識は必要とされず，難易度は易しい。

問３　自治体とＮＰＯの協働手法について，「共催」「補助」「委託」のそれぞれの概念定義を読み取り，具体例がそれぞれどれに当てはまるかを分類する技能が求められた問題。難易度は標準である。

問４　農業地域が直面している課題を提示し，具体例がそれぞれどちらに当てはまるかを考察させる問題。思考力・判断力・表現力等が求められた良問である。近年の農業を取り巻く環境は変化が激しく，経済分野の側面からも受験者に常に関心を持っていてもらいたい分野である。

問５　日本の地方圏における外部との連携・協力に，どの具体例が当てはまるかを考察させる問題。提示された観点を理解する技能が求められた。難易度は標準だが，選択肢に全てが該当する「①アとイとウ」と「⑧上の観点に直接基づくと考えられる取組みはない」によって，受験者は問題ではなく選択肢に惑わされたのではないか。教育的配慮を施すことが望ましい。

３　分　量・程　度

大問５問，小問30問の構成で昨年度と同じであった。センター試験と比べると大問数，小問数を減らし，読む資料を増やした昨年度の傾向を引き継いだ。問題冊子のページ数は昨年度35ページで，今年度は38ページであった。センター試験では２点または３点だった配点は，昨年度と同じく３点または４点であった。３点の小問が20題，４点が10題，第５問は，小問４題中４問が４点の配点であった。

知識を単純に問う問題に対して，複数の資料などの読み取りや分類の技能を通して，知識の活用し，思考力・判断力・表現力等を要する問題が昨年と同じく多く出題された。そのため，分量については負担が大きく，解答時間に余裕はなかったと思われる。

受験者数は，63,604人（昨年度は68,983人）であった。平均点は60.84点であり，昨年度の58.40点（得点調整後の平均点）を上回った。標準偏差は15.99で，得点のちらばりは，公民科の他の科目と大きな差はない。大問ごとに，難易度と分量に差があった。第１問と，第３問がやや難しかった。

４　表　現・形　式

高等学校の学習過程を意識した場面設定を行い，知識だけでなくそれを基に思考力・判断力・表現力等を発揮して考察する問題が出題された。しかし，思考の根拠や過程を重視したために，直接設問を解くのに必要がない説明文など冗長になりすぎているように思われた。また，多ページにわたって出題されているため，ページをめくりながら解答をしなければいけない小問もあり，その設問ごとに考察して解答を導き出さなければいけない受験者は，時間配分に戸惑ったのではないだろうか。

問いの形式については，30題中15題が４つの選択肢から正答を選択する問いであり，６つの選択肢は５題，８つの選択肢は８題，９つの選択肢は２題であった。可能性のある選択肢をすべて取り上げることが適当としても，設問の文章や資料の量に加え選択肢の数が多いため，受験者の負担は大きかったと予想される。選択肢で「すべて正しい」「正しいものはない」を設定することは，知識を問う問題では効果的だが，一方で技能や思考力・判断力・表現力等を測る問題については教育的配慮の面から望ましくないだろう。選択肢の設定についてさらなる改善と工夫をお願いしたい。

５　ま　　と　　め（総括的な評価）

全体的に，多様な資料をもとに考察する過程を重視した問題が多く，知識と思考力・判断力・表現力等の設問のバランスが取れている。

実際の学習活動を想定した場面設定が工夫されており，受験生にとっては学習してきたこととイメージがつながることで，問題に取り組みやすくなっている。同時に，普段から主体的な学習が重要であることのメッセージにもなっている。また，普段の授業から複数の図や表を用いて情報を読み取る学習を行い，思考力・判断力・表現力等を働かせて考察・分析する経験を重ね，出題形式に慣れておく必要を感じさせる。複数の資料を活用して解く問題が，今後も様々なパターンで出題されることにより，それに対応した資質・能力を伸ばす授業の必要性が喚起され，授業改善が進むことが期待できる。

一方で，現代社会で科目として学習した知識がなくても，文章読解等の技能があれば解ける問題も見られたが，知識を前提にした技能や思考力・判断力・表現力等を測る出題が中心になることが望ましいのではないかと考える。

また，倫理分野では，２単位の授業時間では時間的に丁寧に扱うことが難しいと思われる知識内容についての出題が見られた。従来型の４択問題が多くなっている倫理分野では，基礎的な知識の活用に重きをおいた出題，もしくは専門的な素材（知識）を扱う場合には初見資料として説明を付すなどして技能や思考力・判断力・表現力等を問う形式での出題を求めたい。